

2014 年度 外国語学部語劇祭

上智大学イスパニア語劇 El Gallinero 演目

PIC-NIC

Fernando Arrabal

邦題『戦場のピクニック』 フェルナンド・アラバール作

ゲネプロ 2014 年 12 月 2 日(火) 18 時 45 分開演

本公演 2014 年 12 月 7 日(日) 15 時開演

(上演時間 約 40 分)

於 上智大学 10 号館講堂

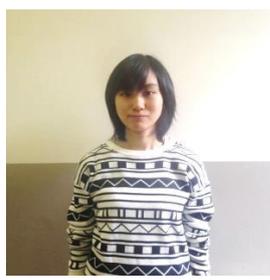
<あらすじ>

舞台はある国の戦場。張り巡らされた鉄条網の中、怯えながらうずくまる一人の兵士、Zapo(サポ)。そこになぜか彼の両親がやってきて、楽しげにピクニックを始める。そこから、敵兵の Zepo(セポ)が紛れ込んだり、爆撃がやってきたりする中でもピクニックは続く。彼らの運命は果たして…。

<登場人物>



Zapo / サポ
高橋 さよ(1年)
テパン夫妻の息子。
少し気弱で、どこか
抜けている青年。



Zepo / セポ
沢田 杏樹(1年)
サポの性格によく似た
敵兵の青年。ピクニック
に出くわす。



Sr. Tepan/テパン氏
村上 莉奈(1年)
サポの父で、戦争が
好き。突然サポを訪
ねて戦場に来る。酒
豪。



Sra. Tepan/テパン夫人
勝田 将平(1年)
サポの母で、少々能天
気なところがある。



Camillero1/衛生兵1
下脇 ぼぶら(1年)
ピクニックに飛び込
んでくる、堅実な衛
生兵。



Camillero2/衛生兵2
後藤 友輔(1年)
衛生兵1と共に戦場を
回っている。若干荒々
しい。

<演出家挨拶>

今回の劇は、これまでのガジネロにはなかった新たな試みを行っています。まず、役者はすべて、今年の4月にスペイン語を習い始めたばかりの1年生が務めています。そして劇の中身も、一味違ったガジネロを皆様にお見せできるようなものとなっております。この劇は、単なる反戦のメッセージとしてではなく、これを見たみなさん自身が感じ取り、そして考えるきっかけとなることを願っております。また、小道具や所作に私たちなりのユニークな味付けをしておりますので、そちらも合わせてお楽しみください。

部長 安井 紀生(3年)

<顧問挨拶>

本当は、誰も、戦争なんかしたくない

今年度のイスパニア語学科語劇団 El gallinero は1年生6人、2年生1人、3年生1人の態勢で進めて来ました。上級生は裏方に回ったので、演じるのは1年生ばかりという El gallinero 史上初めての状況で今日を迎えています。1年生に本格的な作品は難しいかも、1年生のレベルに合わせたスキット集で発表の形を作れるかも、とも考えましたが、姑息なことはやめました。1年生だからこそ、本物のスペイン語とスペイン人作家が創り出す本物の虚構を体験しなくてはなりません。作品を少し短くはしましたが、1年生を信頼してこの世界を託します。イスパニア語を学び始めてまだ半年と少しの新人が、堂々と大劇作家アラバールの『ピクニック』に向き合います。戦争の愚かしさをコミカルに描いた作品ですが、登場人物たちが不思議な議論の末に導き出すさいごの結論に観客のあなたは共感できるでしょうか。

顧問 吉川 恵美子

<スタッフ>

演出……………Kifu Yasui 安井紀生(3年)
演出補佐……………Maki Hayakawa 早川真生(2年)
Popura Shimowaki 下脇ぽぷら(1年)
照明……………Koji Suzuki 鈴木幸治(2年)
Maki Hayakawa 早川真生(2年)
字幕、スクリーン操作……………Kifu Yasui 安井紀生(3年)
音響……………Sayo Takahashi 高橋さよ(1年)
Anju Sawada 沢田杏樹(1年)
大道具・小道具・衣装……………Maki Hayakawa 早川真生(2年)
Shohei Katsuta 勝田将平(1年)
スペイン語指導…………… Elena Gallego (本学教授)
団体責任者……………Kifu Yasui 安井紀生(3年)
顧問……………Emiko Yoshikawa 吉川恵美子(本学教授)

<底本>

フェルナンド・アラバール作、若林彰訳 『アラバール戯曲集〈1〉 戦場のピクニック』、思潮社、1974年。